

## 平成 27 年度第 2 回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要

開催日時	平成 28 年 2 月 4 日 (木) 午後 2 時から 4 時まで
開催場所	奈良市企業局 4 階 大会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「奈良市環境基本計画（改訂版）」平成 28 年度（平成 27 年度実績）施策評価方法（案）について</li> <li>・指標の見直しについて</li> <li>・奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し及び奈良市地球温暖化対策地域実行計画の改訂について</li> <li>・奈良市の環境に関するアンケート調査について</li> <li>・今後の予定について</li> </ul>
参加者	出席者 5 人 ・ 事務局 5 人
開催形態	公開（傍聴人 0 人）
担当課	環境部 環境政策課

### 意見等の内容の取り纏め

#### 《開会》

平成 27 年度第 2 回奈良市環境基本計画推進会議開催にあたり事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。

#### 《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

「奈良市環境基本計画（改訂版）」平成 28 年度（平成 27 年度実績）施策評価方法（案）について、事務局による説明のあと、参加者に意見を求めた。

また、前回の第 1 回奈良市環境基本計画推進会議で、実績集計中であった指標 NO.1「市域の温室効果ガス排出量」の実績について報告した。

平成 28 年度（平成 27 年度実績）の評価項目について、昨年度と同様、5 段階で評価している単年度目標値に対する単年度達成率と、4 段階で評価している最終目標値に対する進捗率、指標の波及効果、効率性の、4 つの評価項目の点数の合計により、指標ごとに総合評価をまとめる。

変更点として、作成した評価コメントが、施策にどの様に反映されているかわかりやすくするために、施策担当課が入力している自己評価シートの様式を変更した。評価コメントをより参照しやすくなるように、課題や今後の方針を記載する欄と並列させた。

また、欠席者より事前に意見の提示があり紹介した。計画の実施について計画段階で環境基本計画推進会議を活用し、今以上に計画推進の実効性を高めるために、毎年度の目標及び実施計画を公表する期限を決定すべきである。実施計画には実施責任者、実施項目、日程を明記すべきで

ある。計画した実施計画（施策）を実施した場合は実施日、実施担当者、参加者を3ヶ月以内にまとめたものを報告してもらいたい。

#### ○質疑・意見の要旨

・PDC Aサイクルのチェックからアクションへの流れは今までどうしていたか。様式の変更で担当課の負担にならないか。

→評価コメントを各担当課へ報告しフィードバックは行っていた。今回の変更では、評価コメントと、今後の課題を並列させることによって、チェックからアクションへの流れを可視化することを狙っている。レイアウトの変更だけなので負担増加にはつながらない。

⇒環境に関係する業務において、環境への配慮や予算、業務の効率との折り合いがあると思う。新しい自己評価シートでは、担当課の工夫が見えるようになってきているように思う。

・奈良市環境基本計画（改訂版）に基づいた、担当課と環境政策課での取り組みを、もっと市民に周知できないか。奈良市環境基本計画推進会議での議論が市の業務として執り行うだけでなく、市民の環境への理解を高めるものとして情報発信できればよい。

→「奈良市の環境」の発行などで指標の自己評価、評価コメントの公表は行っている。奈良市環境基本計画（改訂版）の見直しについては、アンケートやパブリックコメントなどで公表する。来年は外部に発信する機会が多く、市民の方からご意見をいただく機会も多い。

⇒手法について、工夫の余地があるかもしれない。

・環境への配慮という観点で言えば、事前に各課での実施施策の計画段階でコメントできれば理想的である。

→担当課で遂行している業務を計画段階から指導することは難しい。環境に関する職員研修では、各職場で実施している環境に関わる事業について紹介し、意識の高揚を図っている。

⇒今まで以上に、担当課の課題に対する対応が見えてくるようなので期待したい

・指標の評価について、評価を見るときに次年度の計画は確定していないのか。PDC Aサイクルのアクションの中でも評価を施策に反映させるような、計画に柔軟性をもたせることはできないか。

→評価コメントを確定してから担当課へのフィードバックは、予算時期に合わせている。新規事業を実施する、計画を新しく見直すことは、基本的に予算を必要とする。年度ごとに予算編成を行うので、年度途中で施策に反映させることはできないことの方が多い。

⇒以前は評価の時期がもっと遅かったため、フィードバックが次年度の計画に反映させることができなかった。スピード感の観点では前進している。

・環境に関する職員研修の概要はどのようなものか。

→環境に関する職員研修は90分、講義を1時間程度、残りを質疑応答の時間とした。管理職向けを3日で3回、係長以下の職員を対象に2日で6回実施した。

内容は温暖化のしくみの解説、奈良市環境基本計画（改訂版）・奈良市地球温暖化対策地域実行計画・奈良市地球温暖化対策庁内実行計画の概要説明、各職場での環境に関わる事業の実例、緩和策と適応策について、各職場できる温暖化対策などである。

指標の見直しについて事務局よる説明のあと、参加者に意見を求めた。

事務局から各施策担当課へ進捗状況の確認を行っている。昨年度から、進捗状況の確認の際に担当課に対して、目標値と現状値をふまえ指標の見直しについて確認している。事務局で精査した結果、指標の見直しが1指標、目標値の見直しが7指標あり、次年度以降の施策評価に反映させていきたいと考えている。

また、欠席者より事前に意見の提示があり紹介した。計画した施策を実施した場合は、実施日、実施担当者、参加者を3ヶ月以内にまとめて報告するべきである。指標見直し案は反対である。事務局案の他にも見直すべき指標があるが、今年度の具体的な施策がわからないため判断できない。

#### ○質疑・意見の要旨

・見直しを行う理由として、奈良市の総合計画との整合性について挙げているが、総合計画の目標設定ではどの様に環境に配慮しているか。

→総合計画と奈良市環境基本計画（改訂版）の時期にずれがあり、上位計画である総合計画の見直しが直近であった。総合計画の指標で、最新の実績値を用いて目標設定をしているものがある。今回の見直しでは、そういった指標について総合計画、奈良市環境基本計画（改訂版）の整合性が取れるように調整している。

・下水処理施設の耐震化率が100%から41%に大きく変わっている理由はなぜか。

→奈良市内の下水処理施設が7施設あるが、平城浄化センターの処理能力だけで市内の処理施設の7割近くある。下水道部門の企業局編入をきっかけに工事計画の見直しを行い、平成33年で平城浄化センターの工事が6割終了し、全体の計画では41%が終了する。他の施設は統廃合や移管など、様々な効率的な運用法を検討しており、今後の工事予定は未定である。

・幼稚園・小学校での環境出前講座開催数の目標は回数よりパーセントなどにしたらいいかと思う。今回の見直しのように学校の数が変わるたびに数値が変わってしまう。

奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し及び奈良市地球温暖化対策地域実行計画の改訂について、事務局よる説明のあと、参加者に意見を求めた。

「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し・奈良市地球温暖化対策地域実行計画改訂」にあたり、奈良市環境基本計画推進会議での意見交換を中心に、計画の見直し・改訂を進めていきたい。事務局での改訂作業の経過報告を随時行い、奈良市環境基本計画推進会議参加者の意見をいただきながら素案を作成していく。来年度の推進会議では、例年の施策評価コメントの取りまとめのほか、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し・奈良市地球温暖化対策地域実行計画改訂」についてもご意見をいただきたい。

奈良市環境審議会とも連携し、奈良市環境基本計画推進会議で議論した内容や素案については、奈良市環境審議会へ報告・承認をもらって進めていきたい。

フランス・パリで気候変動枠組条約第21回締結国会議（COP21）が開催され「パリ協定」が採択されるなど社会経済情勢や、国の環境政策の動向に変化が見られる。奈良市でも国・県の

目標をふまえ、市域の特性に合った計画を見直し・改訂していきたい

また、欠席者より事前に意見の提示があり紹介した。環境基本計画（改訂版）中間見直し・奈良市地球温暖化対策地域実行計画改訂に関して、実施計画には、具体的に責任者、項目、期限を明記してほしい。

○質疑・意見の要旨

- ・パリ協定は厳しい数値目標であるが国の動向や、市の動きは何かあるのか。  
→国の動向としては、国民運動を行うようである。家庭部門において、国民一人一人の二酸化炭素削減の積み上げが大きい。奈良市域も民生家庭部門・民生業務部門がおおきな割合を占めており、市域の特性にあわせて目標値を達成していきたい。
- ・啓発だけでなく、経済的な仕組みでアプローチしないと、削減目標に追いつかないと世界で言われている。具体的な施策を奈良市スタイルとして何か打ち出せるか期待したい。
- ・パリ協定はグローバルな環境への取組であり。同じ地球の中で奈良が何をすることが重要だと思う。
- ・パリ協定が採択されたが、それにとまなうインパクトはあるのか。  
→現在ではまだパリ協定にとまなう市民の反応は感じられない。気候変動などは、数十年単位での目標設定になり、実感を持ちにくいのではないかと考えている。  
⇒今後の啓発に期待する。

奈良市の環境に関するアンケート調査について事務局よる説明のあと、参加者に意見を求めた。

奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直しにあたり、国の環境政策の動向・社会経済情勢の変化や市民の環境に対する意識を見直しに反映させるために、5年前の計画策定時と同様に、市民、事業者へのアンケートを実施したい。前回との比較ができるようアンケート内容は概ね同様にした。

新たに追加を検討している項目としては、市民向けアンケートの最終ページの間10に、環境に関するキーワードをどれくらい知っているかを問うものを加えた。

それぞれの分野別将来像と関連するキーワードを示し、どの分野のキーワードを多く知っているかで市民の関心が高い分野を見出し、今後の施策展開の参考とすることを目指す。

○質疑・意見の要旨

新しい設問である市民向けアンケートの間10について、事務局でもキーワードを考えているので参加者の皆様の意見をいただきたい。

- ・キーワードの集計結果で、市の施策に対する市民への定着度がわかる。最近ニュースになったキーワードの関心度や、力を入れた施策に関係するキーワードなのに関心が低いであるとか、施策に反映できるデータが取ればよい。
- ・知っているキーワードだけでなく、丸がつかなかった知らないキーワードの集計も今後の啓発に役立つと思う。身近なテーマ、最新の環境に関する事例を取上げてほしい。

- ・先進自治体の事例の収集を行い、似たような試みがないか調べてほしい
- ・欠席者から、奈良市環境基本計画（改訂版）について知っているかアンケートに設問として追加してはどうか、という事前提案があった。  
→市民向けアンケートの設問10のキーワードに追加する。
- ・事業者向けアンケートにある、環境保全の取組についての設問ではコージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入について記載があるが、市民向けアンケートにはない。一般家庭用のコージェネレーションのシステムが普及されてきている状況を考えると、市民向けアンケートにも記載するほうが良い。  
→市民向けアンケートの環境保全の取組についての設問に追加する。

今後の予定について、事務局より説明がなされた。

今年度の開催は本日で最後とし、次年度の開催日程については、アンケート結果や本日決定した評価方法に基づき、平成27年度実績の評価がまとまり次第、調整させていただく。